

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 日作成)

小委員会名	建築生産小委員会	主 査 名：吉田敏 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会	委員長名：平野吉信 主 査 名：
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・本小委員会は、建築生産に関する技術や技能、また制度上の諸問題を広く研究・議論することを目的として設置する。 ・建築生産分野では BIMをはじめとする新技術の展開や、施工技術開発の一方で、国際的な環境変化、震災復興対応、東京オリンピックへ向けた動き、深刻化する技能者不足や環境問題など課題が山積している。本小委員会ではこれら、建築生産技術、産業構造などの課題に関する現状と今後について研究を行う。 ・研究成果の発表の場としてシンポジウム、セミナーなどを企画、運営する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し	
	主査 吉田 敏 産業技術大学院大学 創造技術 幹事 稗圃 成人 鹿島建設(株) 建築管理本部 建築技術部 浦江 真人 東洋大学 理工学部建築学科 安藤 正雄 千葉大学 工学部デザイン工学科 金森 茂 大京アステージ 蟹澤 宏剛 芝浦工業大学 工学部建築工学科 権藤 主都大学東京 佐々木 晴夫 大成建設(株) 建築本部建築技術部 信太 東京都市大学 志手一哉 芝浦工業大学 工学部建築工学科 曾我 行雄 (株) フジタ 経営改革統括部 VE推進部 多葉井 宏 (株) 竹中工務店 技術研究所 新生産システム部 平野 吉信 広島大学大学院工学研究科建築学専攻 持田 泰秀 立命館大学 理工学部建築都市デザイン学科 森岡 徹 (株) 大林組 東京本店 建築事業部生産技術部	
設置 WG (WG 名：目的)	建築技術調査 WG 建築生産小委員会の活動と一体的に活動しつつ、最新の建築技術に関する情報収集分析を行うことを目的とする。	
2015 年度予算	65,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keizai/seisan/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	12 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 建築生産シンポジウム 参加者数 92 名 (資料名) 第 31 回建築生産セミナー論文集 2. 建築生産セミナー 参加者数 (予定) 50 名

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 建築生産シンポジウムについては、当初の計画通り、建築生産に関する研究者が一同に介し、研究成果を発表するという内容を遂行した。発表者数、参加者数共に、当初の想定どおり集まり、当該領域の研究者と実務者の交流の場としての役割も果たせたと考えられる。</p> <p>2. 建築生産セミナーは、建築生産に関する最新技術紹介のためのセミナーであり、本年度は歴史的価値を有する建築物の再生技術に焦点を当てたものとなっている。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 建築生産シンポジウムについては、継続的な発表と交流の場は確立されている。今後は、必要と考えられる方向性を把握しながら、的確な対応を加えていく必要がある。</p> <p>2. 建築生産セミナーについては、当該分野の最新技術に対する視点を的確に理解していく必要がある。</p> <p>3. 二つの企画については、継続的に目的を達成することができている。しかし、昨今の建築生産分野に関する課題は増加する傾向があるといえ、次年度以降には必要な議論を行って、しかるべき発信をしていくことも視野に入れるべきであると考えられる。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。